

建築研究開発コンソーシアム 平成30年度通常理事会・通常総会

建築研究開発コンソーシアムでは、平成30年6月13日に学士会館にて平成30年度通常理事会・通常総会を開催致しました。同会には多数の会員のご出席を得て、過半数をもって成立し全ての審議議案について承認されました。

以下に総会での村上会長の挨拶と国土交通省住宅局住宅生産課長長谷川貴彦様のご挨拶の要旨、懇親会での村上会長の挨拶と国土交通省住宅局長伊藤明子様のご挨拶、並びに、緑川副会長、今木副会長の挨拶の要旨を記します。

挨拶要旨

建築研究開発コンソーシアム
村上 周三 会長



2013年に作成した中期ビジョンに基づいて活性化に励んでいる。当会の会員は一時、停滞、漸減傾向であったが、喜ばしいことに数年前から正会員が増加に転じ、それが継続している。今後も活性化の傾向を継続していきたい。

活性化の最大の原因は会員の皆様が提供しているプログラムが大変魅力的であることに尽きる。例えば中期ビジョンに沿って実施している正会員限定の人材育成プログラムでは、若手中堅の方にお集まりいただき、先輩方が大変丁寧に講義をしている。毎回募集するとすぐに満員になる。私も毎年1時間半講義をして、皆様と意見交流して大変勉強になっている。

コンソーシアムはたくさんの研究会を立ち上げているが、その中で建築研究所が中心になってコラボレーションミーティングを通じて研究会が立ち上がっている。他にも研究会を立ち上げる方法はあるが、日ごろの建築研究所のご協力に感謝申し上げます。現在までに145件の研究テーマが立ち上がり、多くはコンタクトポイント、JIS原案作成につながり、国土交通省の行政にも貢献している。

また昨年度、国土交通省からの要請を受け建築基礎地盤研究の推進の活動を始め、今年度から本格的に動き出す。数年前から建築基礎地盤の問題は非常に大きな建築界の問題だが、テーマの重要性の割には研究蓄積が十分ではない。この問題をコンソーシアムが中心になって課題抽出に努めさせていただく。

現在、建築関連業界は大変活況を呈しているが、同時に色々課題を抱えている。地球環境、自然災害、AI・IoT対応、人手不足など、これらの問題に対応するにはコンソーシアムのような異業種交流の場で幅広い意見交換をして、英知を結集して課題解決の道を探っていくのが最も有効な方法である。

当コンソーシアムの必要性、意義はますます高くなっている。今後とも建築関連産業の技術開発に貢献しているコンソーシアムの活動に今までと変わらぬご支援を皆様をお願いしたい。

ご挨拶要旨

国土交通省 住宅局 住宅生産課長
長谷川 貴彦 様



コンソーシアムの平成14年設立以来の産官学の枠を超えた建築分野での積極的な活動に敬意を表する。本日お集りの皆様には当会の活動を通じて住宅行政のサポートを頂きお礼申し上げます。建築・住宅行政はコンソーシアムが取り組む技術開発の進展と表裏一体に進めている。今回、国会に提出している建築基準法の改正案は防火性能に関する様々な知見を踏まえ規制を合理化する。近年では省エネ性能などに代表される環境性能が注目を浴びている。建築物省エネ法を初めて大規模な非住宅にも義務付けたが、今後は技術開発を進めながら他分野へも対策を進めていく。

建築物の性能にダイレクトに影響する施策以外でも技術開発の重要性が増している。典型的な例が働き方改革だ。建設業の働き方改革は国交省だけではなく政府全体として進めている。例えば週休2日であるとか職場環境改善等大きなテーマだ。

こうした施策を進めるためには、休みを増やすだけでなく、生産性を上げることが大きなポイントになる。カギを握るのは現場施工等に関する技術開発による生産性の向上で、これは住宅局の枠を超えたテーマになっている。コンソーシアムでの技能支援ロボット、3Dプリンター活用等の取り組みも意義深い。建築分野の技術開発において当会の役割は範囲が広がっているのではないかと。コンソーシアムが引き続き積極的な活動を進めて、私どもの住宅行政とさらに連携を図って頂ければありがたい。



挨拶要旨(懇親会)

建築研究開発コンソーシアム
村上 周三 会長

建築業界にかかわらず産業界でイノベーションのスピードが非常に速くなっている。建築業界は多くの関連業界がある中、課題も多く抱えている。地球環境、自然災害、女性活用、働き方改革、AI対応、海外労働者等の重要な課題を多く抱えている。旧弊依然とした業界だが、いろいろな意味でイノベーションを迫られている。その時に異業種の交流が非常に大事である。イノベーションを進めるうえで一つの有効な方法は他の分野との交流だと思っている。会長をさせていただいて長くなるが数年前から会員も増え異業種交流の実態がだんだん出てきている。

研究会を中心に益々異業種交流によるイノベーションを進めていきたいと考えております。ぜひ今までと変わらぬ皆様のご支援をお願いする次第です。

ご挨拶要旨

国土交通省 住宅局長
伊藤 明子 様



建築研究開発コンソーシアムの皆様におかれましてはいつも住宅建築行政でお世話になっており、御礼申し上げます。

村上会長から異業種・イノベーションというお話があった。建築住宅分野はとり分けそうかも知れないが、ベーシックな最低限の建築規制とさらにその上をどのように考えていったらよいか、ストック問題をどう考えるか、また、国土交通大臣は今年を生産性革命の深化の年と位置付けている。働き方改革が進められているが今一度、生産性向上をどう考えていくか、といった課題がある。私共は建築基準法の防火関係の規制の合理化を進めているが、性能評価をより徹底させる中で、新たに技術開発が出てくるかも知れない。最近の話題では、大規模建築物について省エネを義務化したのが、これからどうするか。これは最低限の話ではなく、CASBEEやBEMSの表示を含めてマーケットを使ってどのようにレベルアップさせて行くかというのも大きな話だ。ストック、BIM、ドローン、地盤・基礎、色々なことをコンソで取り上げて頂くことは私共にとっても大変ありがたい。

住宅建築分野は比較的縮む分野ではないかと心配される向きもあるが、私はあまり心配していない。人が生きている限り住宅、建築物の必要性が無くなることはない。ただ、やらなければならない技術は、今お話ししたハード的なものだけでなく、もう少しソフト的な医療、SDGs等の違う分野が新しいテーマとして常に出てくるのではないかと。ご臨席の皆様は私共と一緒に、建築住宅技術で世の中にどう貢献できるかと考えて頂いているが、まだまだやらなければいけないことが無限にある。会長のお話にもあったように、自分の分野だけで考えると新しいことは思いつかないが、関連したことでイ

ンスピレーションをもらうとか、ちょうど中間のところで連携すると生み出される事がたくさんある。新たな海図をもって色々なお力添えを頂ければと思います。

最後に、ご臨席の皆様方のご発展ご健勝を祈ってご挨拶と致します。

挨拶要旨

建築研究開発コンソーシアム
緑川 光正 副会長



コンソの活動は研究会、人材育成、講演会等いろいろ実施しているが、昨年度は国土交通省と連携して建築基礎地盤の研究の推進に取り組むことができた。この分野の現状と課題を整理するために昨年11月にシンポジウムを開催し、それに続いて研究会を行い、3月までに建築基礎地盤の研究のロードマップを作製した。今年度はロードマップを受けて建築基礎地盤関係の研究会が企画されているので、皆様のご協力をお願いしたい。

挨拶要旨

建築研究開発コンソーシアム
今木 繁行 副会長



建築研究開発コンソーシアムは、平成14年の設立以来、人材交流支援、インキュベーション支援等、研究開発の為にいろいろなプラットフォームを提供していることを会議の中でもお聞きし大変感銘を受けた。今、建設業界は、週休2日制や生産性向上を通して「働き方改革」「担い手確保」に向けた活動をしているが、IoT・AI等最新技術で建築業界は大きく変わろうとしている。今までの5年の変化とこれからの5年の変化ははっきり言ってかなり変わる。そういった中で、当建築研究開発コンソーシアムの果たす役割は本当に大きくなっていく。これから任期の2年間、村上会長のご指導をいただき、皆様とともにこの建築研究開発コンソーシアムの活動に微力ながら、力を尽くしたい。どうか皆様におかれましては、建築研究開発コンソーシアムの活動への、積極的なご支援をお願いしたい。



前事務局長、新事務局長のご挨拶を紹介します。

コンソ事務局では、平成30年4月に事務局長が交代いたしました。

中村前事務局長より5年半の在任期間を振り返り、また石川新事務局長より今後の抱負を語ってもらいました。

退任ご挨拶

前事務局長
中村 修三



長縄事務局長の後、私は平成24年10月から平成30年3月まで事務局長を務めました。この間、関係各位、及び事務局スタッフには大変お世話になり感謝申し上げます。印象に残った活動を、その時お世話になった人を思い浮かべながら以下に述べます。

1) 中期ビジョンー 2013の策定

着任早々、村上会長の指示により来年の総会に中期ビジョンを策定することになっており、事務局業務を理解しながら、案の作成に取り組みました。5月の連休の間、西山理事(運営委員長)、成藤研究総括監(研究開発推進等委員長)、私の3人の間で、メールのやり取りをして内容を固めていきました。委員会の審議を経て、りっぱな中期ビジョンになったと思います。

2) 人材育成プログラムの活動

コンソ独自の活動について悩んでいる時に、清水建設の山崎委員から「これからは人材教育だよ。」の意見で、これだと思いました。運営委員会の下に人材育成事業検討部会を設置し、「私の研究開発履歴書」等の枠組みを構築しました。講師の人選において、検討部会メンバーの会社から選ぶことになり検討部会メンバーの大成建設の藤井委員と三菱樹脂の安藤委員を含め素晴らしい5人の講師が決まり、人材育成プログラムがスタートしました。2年目から村上会長が特別講義を引受けていただき、更にインパクトのある現在のプログラムとなっています。5年を経過しコンソを代表する活動になっています。

3) 平成26年度国交省補助事業「モンゴル国における我国の耐震建築・高層建築技術の展開に関する基礎調査」

6月に採択され、9月にモンゴルで日本の建築技術の紹介を主体としたセミナー開催が決まりました。非常にタイトなスケジュールの中、清水建設の柴委員長のもとゼネコン、設計事務所、建材メーカー、エレベーターメーカー、建築研究所による「モンゴル調査委員会」で対応し、成功裏に終えることができました。モンゴル国建設省の日本への感謝は大変なものでした。日本の参加者全員に有名な書家のモンゴル語による各自の名前の掛軸がプレゼントされました(どうみても、読めませんが・・・)。私も事前準備とセミナーの2回モンゴルへ行くことができ、一生の思い出となりました。

最後になりますが、コンソが益々発展し、会員及び社会に貢献できるよう願っています。

就任ご挨拶

事務局長
石川 晋



4月1日付にて事務局長を拝命致しました。現代の世界は猛スピードで激変が続き、変転・転換し、20世紀時代の前提・基準・価値観等は既に使い物にならなくなって久しい感があります。国際関係におきましても、21世紀の世界は、20世紀の100年間とは異なり、かつて経験したことのない国際関係になるとの予測も度々見受けられます。

翻って科学技術は、イノベーションが多発し、従来にはなかった技術が様々な分野で次々に誕生し、普及し、世界の産業地図・業界地図も急速に変動しております。

日本におきましては、生産年齢人口の減少並びに労働力不足が現実のものになっております。今後、技能労働者は大幅に減少すると試算も見られ、技術者の不足による技術能力の減衰に対処しながら生産性向上を果たすには、技術のイノベーションしか手は無いとの声も聞こえてまいります。

R & Dにおける知的創造は、一領域の研究の深耕だけでなく複数の異なる分野の技術・知見を組合せることが有効であり、必要であると言われております。

また、現在私達の社会の技術的な課題は、激甚な自然災害 vs 防災・減災、地球環境とエネ・資源・素材、レジリエンス、生産人口の減少 vs 生産性向上、ICT、IoT、人間工学、センシング、ビッグデータ、AI、ロボティクス、SDGs 等々、どの業種のどの研究所や企業でも1社だけの技術・知見では解決できず、様々な異なる分野の技術・知見を組合せ、ミックスすることが必要不可欠な課題ばかりとなっております。

そのため、科学技術のイノベーションを触発・励起するために、産・官・学連携、異業種連携、異分野ミックス、異分野協働による研究開発の必要性・重要性がますます注目される状況となっております。

この十数年間各種のR & Dに小職も関係させて頂いております。小職自身の畑は 経済・財務・税務・法務・監査等ですので技術者・研究者各位とは角度の違った視点もあるかも知れませんが、それもまた当コンソの特色である異分野連携の一例と致しまして、このコンソの、産・官・学連携、異業種連携が会員各位の研究開発にプラスのシナジーとなることを祈念致しますと共に、若手研究者を育む人材育成プログラム等々の各種の取組みにより、科学技術の発展・飛躍に資するべく尽力してまいりますので引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

委員会の構成と委員の紹介

委員会構成図



※各委員会は、必要に応じて小委員会・部会を構成する

運営委員会

委員長 澤地 孝男 (国研)建築研究所	委員 村田 幸隆 (-財)ベターリビング
副委員長 団栗 知男 大阪ガス(株)	委員 内海 一郎 積水化学工業(株)
委員 中田 信治 旭化成ホームズ(株)	委員 鈴木 康嗣 鹿島建設(株)
委員 小林 努 新日鐵住金(株)	委員 山田 哲弥 清水建設(株)
委員 湯浅 憲 高砂熱学工業(株)	委員 玉田 真人 大和ハウス(株)
委員 半田 雅俊 戸田建設(株)	委員 林田 康孝 (国研)建築研究所
委員 今村 芳恵 (-財)日本建築センター	委員 安井 健治 (株)奥村組
委員 河野 昭彦 (-財)日本建築総合試験所	

交流推進委員会

委員長 内海 一郎 積水化学工業(株)	委員 大倉 真人 (株)長谷工コーポレーション
副委員長 鈴木 康嗣 鹿島建設(株)	委員 田村 俊樹 パナソニック(株)
委員 竹内 博幸 五洋建設(株)	委員 橋本 博文 三菱ケミカル(株)
委員 高木淳一郎 積水ハウス(株)	委員 山崎良一郎 吉野石膏(株)
委員 田端 淳 大成建設(株)	
委員 藤原 達夫 鉄建建設(株)	

インキュベーション委員会

委員長 山田 哲弥 清水建設(株)	委員 梅田 泰成 住友林業(株)
副委員長 玉田 真人 大和ハウス工業(株)	委員 柳橋 邦生 (株)竹中工務店
委員 岩本 吉隆 (株)安藤・間	委員 星島 昭治 パナソニックホームズ(株)
委員 上山 耕平 (-財)建材試験センター	委員 相川 隆 ミサワホーム(株)
委員 鈴木 正美 新菱冷熱工業(株)	委員 赤尾 伸一 三井住友建設(株)

研究開発推進等委員会

委員長 林田 康孝 (国研)建築研究所	委員 平田 茂良 大和ハウス工業(株)
副委員長 安井 健治 (株)奥村組	委員 野崎 利樹 東京ガス(株)
委員 相賀 洋 (株)大林組	委員 島 一喜 (独)都市再生機構
委員 藤井 睦 (株)鴻池組	委員 森 俊之 (株)フジタ
委員 吉岡 清 佐藤工業(株)	

詳細は、ホームページをご覧ください。http://www.conso.jp/

新会員・新事務局員の紹介

新会員 (※入会順)

正会員

- ・株式会社トラバース
代表者：佐藤 克彦
所在地：千葉県市川市末広 2-4-10
- ・株式会社長谷工エアネシス
代表者：村塚 章介
所在地：東京都港区芝 4-6-6 長谷工芝四ビル
- ・株式会社アステック入江
代表者：高橋 正幸
所在地：福岡県北九州市八幡東区西本町 3-1-1
- ・大日本プラスチック株式会社
代表者：鳥本 匡聡
所在地：大阪市北区梅田三丁目1番3号 ノースゲートビルディング 16 階

準会員

- ・株式会社日本アクア
代表者：中村 文隆
所在地：東京都港区港南 2-16-2 太陽生命品川ビル 20F
- ・株式会社テクノバ
代表者：亀井 淳史
所在地：東京都千代田区内幸町 1-1-1 帝国ホテルタワー 13 階

新任事務局員



金子 巧

清水建設株式会社より事務局に出向して参りました金子です。今回未経験の分野での業務になり戸惑う事もあるかと思いますが、皆様のお役に立てる様務めて参りますのでご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

学術会員

- ・渡邊 朗子氏 東洋大学
情報連携学部 教授
- ・鈴木あるの氏 京都大学
理学研究科 留学支援室 講師
- ・田村 修次氏 東京工業大学
環境・社会理工学院建築学系 准教授
- ・水津 光司氏 千葉工業大学
工学部 情報システム通信工学科 教授
- ・下村 修一氏 日本大学
生産工学部 准教授
- ・小西 敏正氏 宇都宮大学
名誉教授
- ・道明 裕毅氏 日本大学
理工学部 建築学科 助手

Ⅱ種情報会員

- ・三平 伸吾氏 株式会社 複合技術研究所
- ・大森 康幹氏 大森建築設計事務所



松沢 晃一

4月より国立研究開発法人建築研究所材料研究グループとの兼任で事務局に参りました松沢です。建築材料の耐久性評価を専門としています。幅広く皆様のお役に立てるよう努めますので宜しくお願い申し上げます。

CBRD News Letter 34号

発行日：2018年7月31日
編集：建築研究開発コンソーシアム 交流推進委員会
発行：建築研究開発コンソーシアム 事務局

CBRD 建築研究開発コンソーシアム

〒104-6204 東京都中央区晴海 1-8-12 トリトンスクエア Z棟 4階
TEL: 03-6219-7127 FAX: 03-5560-8022
E-mail: conso@conso.jp (代表) Home Page: http://www.conso.jp/